

検診の結果は歯科医師から保育園にフィードバックされ、保育園から保護者へ。連携による意識向上が子どもたちの将来の歯の健康維持につながる。

べることができると人の割合」です。年齢に関係なく、自分の歯が20本を下回ってしまうと、口にすることができるものが少なくなり、心理的な豊かさや肉体的な健康も損なってしまう可能性が高まるということがわかります。

この「8020運動」の達成率向上のため、日本歯科医師協会は「幼児期からの歯科検診」を推奨しています。もちろん、乳歯は生え変わりますが、子どもの頃から歯や口腔環境に対する意識を育てていくことが、結果的に高齢者を迎えたときの自分の歯の維持につながっていくのです。

広島市中区白島にある「ともえ保育園」(定員240名、13クラス)では、8年前から0歳児をはじめとした園児全員の歯科検診を毎年行なっています。

「1歳児の園児の嘔み合わせの不具合を早期発見できた例もあり、保護者の方には定期的な検診で口の中をしっかりと見てもらえるという安心感を持っていただけです。また、保護者の方や職員に検診の結果をフィードバックすることで、『0歳児は歯が無いから大丈夫』という安易な考えではなく、口腔環境に対する意識を高くもっていただくことができ



取材協力
 社会福祉法人ともえ福祉会／ともえ保育園
 広島市中区白島北町1-5
 ☎(082)228-6088

医療法人社団みずほ会
 広島市中区袋町5-13JDS袋町ビル
 ☎(082)227-0102



歯科医師と保育園の先生による息のあった検診は、子どもたちを不安な気持ちにすることなく、順調に進められる。



お口の中に
 関心を持つとう！
**0歳からの
 歯科検診**
8020運動
 高齢になっても自分の歯で、
 おいしく食べてイキイキ
 過ごすために。

人生100年時代、元気に食べて自分らしく生きるため、歯の健康に0歳から向き合う保育園と歯科医の取材レポート。

「8020運動」をご存知でしょうか。「ハチマルニマル」と読み、その数字の示す通り、80歳まで自分の歯を20本以上維持することを推奨する運動です。20本以上の歯があれば、食生活にほぼ満足することができると考えられ、平成元(1989)年から厚生省(当時)と日本歯科医師会が推進

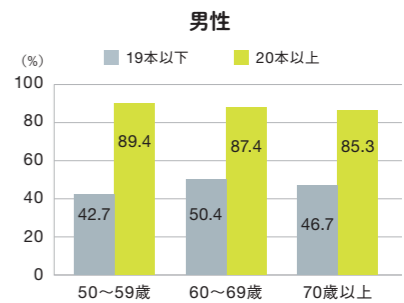
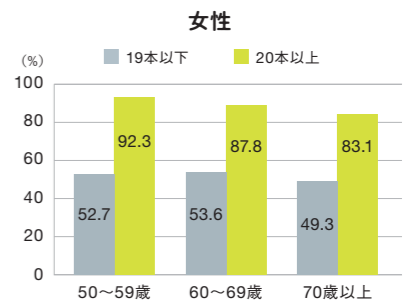


ともえ保育園での「0歳からの歯科検診」の取り組み開始時から携わる、医療法人社団みずほ会 在宅医療支援歯科診療所 倉掛歯科医院院長の高橋 理氏。

しています。当初、この運動の達成率は、なんと約7%。実に80歳以上の方に残っている歯の本数は、4、5本だったそうです。しかし、この運動の効果もあって、年々数値は上昇しつづけ、今では50%を超えています。口腔環境は健康寿命に直結しています。「人生100年時代」、高齢社会が進む日本においては、しっかりと向き合わなければならぬ課題の一つです。

グラフは厚生労働省の「平成25年国民健康・栄養調査報告」からの抜粋データ「何でも噛んで食

「何でもかんで食べることができる」人の割合



国民健康・栄養調査(2013)、50歳以上、男女別